

5年 大切にしよう、わたしたちの「おこめ」

～ 熊本の米づくりを全国に発信しよう ～

熊本市立城北小学校 上村 孝直

1 はじめに

私の前任校である武蔵小学校は、熊本市の北東部に位置する全校児童600人余の中規模校である。付近は阿蘇山の火山灰が堆積してできた高台で、戦前は「走り行水」という言葉が存在するほど水の乏しい地域だった。しかし、戦後の宅地開発で一大ニュータウンが誕生した。それが、校区のすべてを占めている。そのため、地域との繋がりは浅く、農業との直接の縁も全くと言っていいほどない。

とは言え農業県熊本のことであるから、校区からほんの少し足を伸ばすだけで、すぐに田畑の広がる地域に到着する。そこで栽培される様々な作物を、実は子どもたちは無意識のうちに目にしているのだ。しかも、後に分かったことだが祖父母が両親の実家で農業を営んでいる子どもの数も、かなり上る。つまり、そうした身近に転がっている情報を、実は知らず知らずのうちに見逃しているだけなのだ。

そんな武蔵小の子どもたちに、5年生の総合学習でお米づくりを自ら体験するのを機に、お米づくりの苦労や工夫・喜びなどを実感して欲しい。さらには他地域との交流学习を通して、ふだん自分たちが目にしている熊本の米づくりの特徴に気づいて欲しい。そうした願いから、市役所・農政局（旧食糧事務所）JAや農家の方々の協力で体験学習をするのはもちろん、NHK教育テレビ番組「おこめ」とそれに付随するデジタル教材（Webページ）などを活用しながら各地の学校との交流学习も行うといった、実践を進めていくことにした。

2 単元全体のねらい

多くの人とかがわる

学習を深めていく中で、子どもたち同士はもち

ろん、学校外の様々な年齢・地域・職業の方々とかかわっていく中で、必要なコミュニケーション能力を身につけていく。

調べて、まとめて、伝える

自分たちが「おやっ」「なぜだろう」「もっと知りたい」と思ったことをそのままにせず、必要な情報を適切な方法で集め、取捨選択して処理し、相手に分かりやすいよう発信していく中で、必要な能力を身につけていく。

多様なものの見方・考え方

子どもたちがますます高度化する情報化社会を生き抜くためには、ある情報を一方的に鵜呑みにするのではなく、違う視点から見た別の見方、つまり多様なものの見方・考え方ができるようになることが必要である。「おこめ」に向かって様々なアプローチをすることで、そうした能力を身につけていく。

3 実践の流れ

（次ページの流れ図参照）

4 実践の具体的内容

(1) 学習のイメージをつかむ

5年生社会科では、米づくりについて学習する。米づくりの概要はもちろん、そこでの苦労やよりよくしようとする工夫などもたくさん紹介されている。その発展として、総合学習で米づくり体験に取り組む学校は多い。武蔵小でも、学校内でバケツ稲の栽培に取り組むことに加えて、熊本市の「農業体験支援事業」による紹介を受けた林陽一さんの田んぼで田植えと稲刈りを体験させていただくことになった。

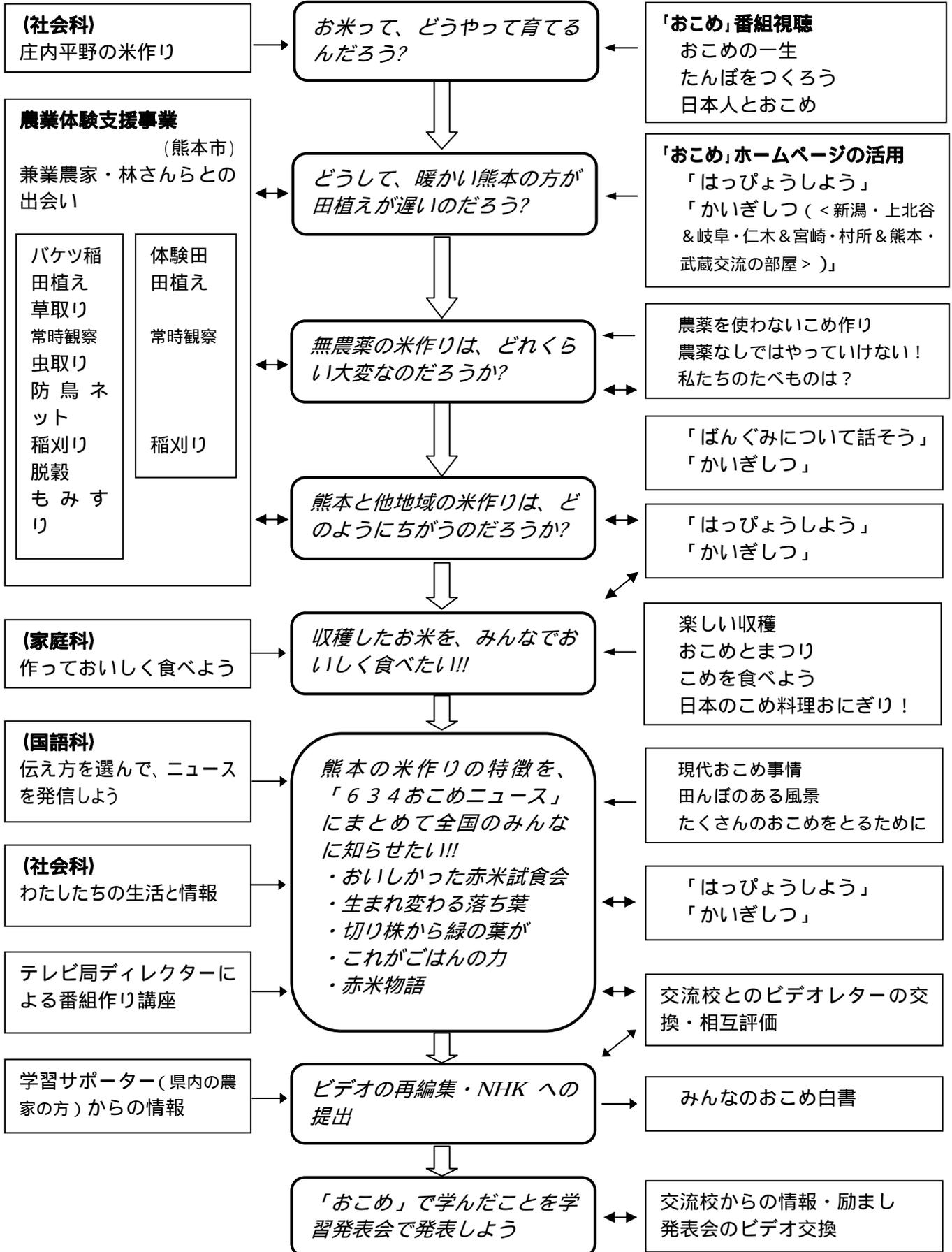
そこで、学習の全容をつかませるため、番組を試聴したり「はっぴょうしょう」に書き込まれた各校

「おこめ」学習の流れ (総合:60時間)

< オフラインの学習材 >

< 子どもたちの思考 >

< オンラインの学習材 >



の様子を紹介したりした。これらによって、子どもたちは学習の一連の流れをイメージできた。

(2) 栽培カレンダーの違いに気づく

林さんの田んぼでの田植えの予定は、6月下旬で、まだまだ先。なのに各地の学校からは、すでに田植えを終えたという便りが「けいじばん」の「はっぴょうしよう」に次々に書き込まれる。子どもたちの間に、動揺が走る。「桜の花が咲くのは暖かい南からなのに、田植えはどうして暖かい熊本の方が遅いんだろう？」

私が撮ってきた林さんの田んぼでは、麦が色づいている。学習サポーターである熊本市大鳥居町の齊藤勝治さんの田んぼでは、ビニルハウスのスイカが収穫目前。そして、菊池市の八並章一さんの田んぼでは、ゴボウの収穫の最盛期。これらのことから、田植えが遅いのは裏作と関係があるのではないかと考え、各地の学校との交流学习を通じて、そのことを確かめていった。その一方で、県内でも天草や八代など海に近い地方では、夏場の水不足対策や台風の影響防止などで、4月初旬には田植えを終え、8月上旬には稲刈りを済ませるということも知った。

このような学習を通じて、農作業がその土地の地形や気候などいろいろな条件に合わせてたいへんな工夫を重ねながら行われていることを知った。

(3) 農薬？無農薬？

いよいよ待ちに待った田植え。林さんたちの指導を受けながら、田んぼに入り、苗を植えていった。みんな生まれて初めての経験で、子どもたちはとても喜んでいった。

林さんへの質問コーナーでは、子どもたちから「農薬は使いますか」という質問が出た。林さんの答えは「もちろん使います」気温の高い九州は害虫が発生しやすく、特に住宅地が近い林さんの田んぼは、無農薬には向かないのだそうだ。ただ、昔に比べるとずいぶん使う量が減ってきたということだった。

(4) 熊本と他地域との米づくりのちがひ

各地の交流校と情報交換していく中で、宮崎・村所小の棚田や岐阜・仁木小のアイガモ農法、新潟・

上北谷小のはざかけ（掛け干し）など様々な工夫を凝らして、とても丁寧な米づくりを行っていることが分かった。では、熊本ではどうだろうか？調べていく中で、熊本では経営規模が小さいことや、米の収益率が他の作物に比べて悪いことなどから、それほど手間を掛けない（掛けられない）ことが明らかになってきた。

その代わりに、他の作物や裏作にはたいへんな手間を掛けていること、そうは言ってもみんな米づくりには採算を越えた特別な熱い思いを持っていること、などを学んでいった。

(5) お米パーティをしよう

秋になると、各地から稲刈りの便りが届けられる。夏休みの終わり近くになってようやく出穂した武蔵小のバケツ稲も、10月になると綺麗に色づき頭を垂れるようになった。雀の来襲もあったが、防鳥ネットを張って対抗し、どうにか守り通した。

10月16日、林さんの田んぼは待ちに待った収穫を迎えた。子どもたちは鎌を使って稲穂を刈り取り、コンバインに運んだ。慣れない手つきで一息懸命に作業する姿、さらには目を凝らして落ち穂を探す姿に、子どもたちが米づくりを通して確実に成長している手応えを感じた。

同時に、武蔵小のバケツ稲も収穫。ベランダに掛け干した後、すべて手作業で脱穀・初すりをした。そのたいへんだったこと。子どもたちは、改めて昔の人たちの苦勞を思い知った。

「苦勞をして育てたお米を、みんなで味わいたい」そんな子どもたちの願いを叶えるため、保護者の協力を得て、バケツ稲で収穫した米と林さんからわけていただいた米とを炊いたご飯でおにぎりを作って味わう、「おこめパーティ」を開くことにした。残念ながら林さんには所用により出席いただけなかったが、子どもたちは舌鼓を打ちながら、食べ物に対する感謝の気持ちを新たにしていた。

(6) 「635おこめニュース」をつくらう

11月になって間もなく、交流校のひとつである宮崎・村所小からビデオレターが届いた。この時期、

社会科では「わたしたちの生活と情報」でニュース番組が作られる様子や、その苦労や工夫を学習する。そこで学んだ手法を生かして、地域の話題やお米づくりに関する活動を紹介したものだ。早速武蔵小でも、この手法を生かしてニュース番組「634（むさし）おこめニュース」を作ることにした。

子どもたちの色々なアイデアの中から採用されたのは、以下の5つである。

「おいしかった赤米試食会」

バケツ稲で育て、家庭科の時間に炊いてみんなで試食した赤米のことを紹介する。

「生まれ変わる落ち葉」

校庭の落ち葉が集められ、積み重ねられて堆肥に生まれ変わる様子を紹介する。

「切り株から緑の葉が」

切り株からまた緑の葉が伸び、その先に小さな穂がつく「ひこばえ」を紹介する。

「これがごはんの力」

宮本武蔵のように強い剣士になるための秘訣は、ごはんをたくさん食べることだと宣伝する。

「赤米物語」

バケツ稲で育てた赤米の成長を、熊本弁のナレーションと楽しい歌や踊りで紹介する。

これらを、テレビ局ディレクターからも指導を受けながら番組に仕上げ、交流校へ送った。

(7) ビデオの再編集

各交流校からは、様々な感想が多数寄せられた。そしてそれらは、厳しい現実を突きつけた。5つの番組のうち2つには、全く反応が返ってこなかった。また、落ち葉を積み重ねただけでは堆肥にはならないのでは？という厳しい指摘もあった。

その一方で、方言や歌舞音曲を駆使した「赤米物語」には好意的な評価が多数寄せられた。学級内での評価は今ひとつだった「ひこばえ」にも、多くの好反応があった。「ひことは孫という意味じゃないかな」「こちらの学校では生えていませんでした」という情報も寄せられ、これが暖かい地方特有のものであることに子どもたちは初めて気づいた。その後さ

らに詳しく調べるうち、学習サポーターである八代市の鶴山正行さんから、ひこばえに実ったおこめを収穫すれば結構な収量があるけれど手間が掛かるので放置していること、有名な鹿児島県出水市のナベヅルはひこばえをエサにするためこの地を越冬地に選んでいること、などを教えてもらった。

こうした評価や新たな情報をもとに、子どもたちはNHKの「ビデオぼしゅう」に送るため5分間の番組に再編集した。後に、この番組の一部が第20回「みんなのおこめ白書」の中で放送され、子どもたちは驚喜した。

(8) その後の交流学习

学年が上がった6年生でも交流学习は続いた。従来の4校に北海道・西美唄小が加わり、おこめに限らずいろいろな話題で交流を深めていくことにした。

6月、武蔵小は修学旅行で長崎へ出かけることになった。そこで、本校から「皆さんも、千羽鶴を折ってみませんか？」と呼びかけたところ、さっそくたくさんの折り鶴が送られてきた。これらを加えた千羽鶴は、修学旅行の際に平和祈念像前で行った「平和祈念集会」で、折り鶴の塔に捧げた。このことを、ある児童は後に「『おこめ』交流校の人たちにも折ってもらって、みんなの願いがひとつになって作ることができました。よかったです」と書き綴った。

こうした交流学习を卒業まで経験した子どもたちは、卒業前に1分間スピーチづくりに取り組んだ。それまでひととき熱心に交流学习に取り組んでいたA子のスピーチは、「私の大事な交流校のみなさん、たくさんのことを教えてくれて、本当にありがとうございます」と結ばれていた。

5 成果と課題

このように、お米づくりに取り組み、それをもとに交流学习を行ったことで、子どもたちは豊かな学びを経験することができた。それは、子どもたちが書き残した文章などから明らかである。ただ、それらをより客観的なデータとして残せなかったのが、とても残念である。今後、こうした点をしっかりと研究し、実践に生かしていきたい。

「おこめ」交流学習の展開

熊本市立城北小学校 教諭 上村 孝直

課題発見 ...社会科教科書で出てくる庄内平野や、「おこめ・けいじばん」での他校の様子と、自分たちの身近な地域の様子とを比較し、課題を持つ。



宮城・西郷小の田植え（5月7日）



熊本・武蔵小の田植え（6月26日）

子どもたちは、全国各地からリアルタイムに届けられる米づくりの様子を見て、以下のような課題を決めた。

なぜ温暖な熊本の方が田植えが遅いのだろう

<予想> 裏作と関係があるのではないかな？
収穫を急がなくてもいいからではないかな？

課題追求 ...県内各地の田んぼの様子を調べ、田植えが遅いことと裏作との関連を追求する。

<林さんの田んぼ>
(熊本市麻生田)



麦刈り直前の田んぼ
(5月20日)

<齊藤さんの田んぼ>
(熊本市大鳥居町)



スイカのビニルハウスが立つ田んぼ
(6月2日)

<八並さんの田んぼ>
(菊池市長田)



ゴボウを収穫中の田んぼ
(5月12日)



ヒノヒカリの田植えが終わった田んぼ
(6月30日)



ヒノヒカリの田植えが終わった田んぼ
(6月30日)



ヒノヒカリの田植えが終わった田んぼ
(6月24日)

子どもたちは、県内各地において裏作で作られる作物に違いはあっても、裏作には非常に大きな力を注いでおり、むしろそちらの方が大きな収入源になっていることや、その収穫のために田植えの時期が遅くなるのだということを知って、驚いていた。

課題追求 ...自分たちのお米づくり体験学習や画像データベースをもとに、他地域の学校の米づくりとの違いを考え、熊本の米づくりの特徴をつかむ。



赤米の出穂（熊本・武蔵小：8月25日）



アイガモの出迎え（岐阜・仁木小：8月26日）



はざかけづくり（新潟・上北谷小：8月29日）



稲刈り中の棚田（宮崎・村所小：9月23日）

子どもたちはこれらの情報の比較から、他の地方に比べて米づくりをあまり重要視していない熊本では、お米づくりで手間の掛かることはやっていない、という特徴をつかんでいった。

課題発見 ...村所小から送られてきたビデオレターを視聴し、自分たちも交流校へ宛てた番組づくりをしようという目的意識を持つ。



村所小からのビデオレター



「村所ニュース」から

子どもたちはニュース風に伝える良さを知り、自分たちもお返しのビデオレターを、社会科の学習と関連させながらニュース風にまとめる「634（むさし）おこめニュース」を作っていくこととした。

課題解決 ...自分たちが発信するのにふさわしい話題を選んで詳しく調べ、ニュース番組にまとめる。



イントロダクション「今日の項目」(1'02)
6時34分、634おこめニュースの時間
です。今日お送りする主な項目は...



ニュース「おいしかった赤米試食会」(0'49)
私たちが育てた赤米を、家庭科の調理実習
の時間に炊きました...



ニュース「生まれ変わる落ち葉」(0'38)
こうして集められた落ち葉は、堆肥として
来年のお米を育てる栄養になります。



ニュース「切り株から緑の葉が」(0'51)
これは「ひこばえ」です。早生を育ててい
る農家には、収穫するところもあるそうです。



レポート「これがごはんの力」(1'31)
ぼくたちがこうして強くなれたのは、ごは
んをたくさん食べたからです。



特集「赤米物語」(3'19)
あんなに小さかった種籾が、ぐんぐん育
って、赤米の稲になったんだ...

交流学习

送ったビデオレターに、「けいじばん」を通じて各校から様々な反応が寄せられた。

ニュース「おいしかった赤米試食会」...反応なし

収穫したお米の試食会はどこでもやっているの、珍しくも何ともない?

ニュース「生まれ変わる落ち葉」...反応少数



みて!

わだいに【武蔵小のビデオを見たよ!!】仁木小学校5年1組の 西郷 心羅さん(1月15日)

このわだいにへんじをかく

ビデオを見ました。赤米物語で方言を使っているのがいいなと思いました。その他にも、暗記をしていたり、赤米のたいしているところも撮ってあって、おいしそうでした。あと、ひこばえが生えてくる事を知らなかったのが、良かったです。よく発見できましたね。私たちの田んぼは、生えていませんでした。質問ですが、落ち葉のたい肥はどのようにつくっているのですか?

調べてみたら、落ち葉を集めただけではたい肥にならないんだ!!

ニュース「切り株から緑の葉が」...反応多数



読んで!

わだいに【武蔵小学校のビデオをみたよ。】上北谷小学校の 田中 真由さん(1月17日)

このわだいにへんじをかく

ひこばえのひこは、まごという意味じゃないのかな。なんでつかっているのだろう。だって同じたねから生まれたんだから、兄弟か姉妹だと、ほくは思います。

「ひこばえ」って、「孫生え」のことだったんだ!!



みて!

わだいに【ビデオ見ました】仁木小学校5年1組の 藤田 真由さん(1月17日)

このわだいにへんじをかく

武蔵小のニュースを見ました。仁木小では、落ち葉を再利用したり、ミニ水田もやってませんが、仁木小では田んぼ貸してもらい、アイガモ農法やっています。昨日ひこ生えが生えているか見ましたが、生えていませんでした。武蔵小はひこ生えをしゃかしていますか?

ひこばえにお米が実るって、とても珍しいことだったんだ!!

リポート「これがごはんの力」...反応なし

おこめづくりとあまり関係のない話題ではダメだな!!

特集「赤米物語」...反応多数



みて!

わだいに【おもしろかった熊本弁】中央小学校5年生の 船津 龍平さん(1月15日)

このわだいにへんじをかく

武蔵小のビデオ見ました!赤米のこともわかりました。その中でも特に印象的だったのは、熊本弁ではなしてよかったところが、とても楽しかったです。やっぱり熊本弁はよかったです!!

熊本弁を取り入れたのは、良かったな!!



みて!

わだいに【浪才風もおもしろかった。】中央小学校5年生の 津田 聖希さん(1月15日)

このわだいにへんじをかく

武蔵小からのビデオCD「赤米物語」とってもおもしろかったです。みんなで見ました。特に踊りや歌が、いっていい浪才風なところがとても、おもしろかったです。またビデオを送ってください。

歌や踊りを交えて楽しく伝えたのは、成功だったぞ!!

課題解決 ...再取材&再編集による提出用番組の制作



学習サポーターの登場



画像データベースの活用



楽しい歌やおどり

どんな感想が聞けるか、楽しみだな!!

交流校のみんなは、どんな番組を作ったのかな??